

なごみ日和

特集

**未来を見せ、そして守る資源循環を
『大阪・関西万博』で実感してみよう**

総合地球環境学研究所副所長・教授 浅利 美鈴さん

連載

全国の市民と実施した「お店のプラスチック調査」の意義

認定NPO法人環境市民 堀 孝弘さん

Hand in Hand

**EXPO KYOTO MEETING 和のこころと
地球の未来 KIMONO UPCYCLE RUNWAY**

京都光華女子大学 学生レポート

京都発！ごみ減量情報誌

104号



なごみ日和

**第45回「大阪・関西万博で感じた
『いただきます』への感謝と重み」**

もっぺん物語 「洋服の病院」

地域活動レポート

小さな一歩も、継続することで着実な成果に
龍池学区地域ごみ減量推進会議



未来を見せ、そして守る 資源循環を『大阪・関西万博』 で実感してみよう

総合地球環境学研究所 副所長・教授 浅利美鈴さん



2025年4月から開催が始まった大阪・関西万博。大屋根リングやパビリオンの話題で持ち切りだが、実は環境やSDGsにとっても力を入れていることはご存じだろうか。

大阪・関西万博は、持続可能な運営を目指し、持続可能性有識者委員会を設置。資源循環に関して専門的視点から議論・検討を行っていくため、委員会の下部組織として「資源循環ワーキンググループ（以下、WG）」が設置された。今回は持続可能性有識者委員であり、WG委員でもある、総合地球環境学研究所 教授の浅利美鈴さんにお話を伺った。

開催前より何かと話題だった大阪・関西万博だが、環境やSDGsへの取り組みがある。浅利さんが参加するWGは一体何をしているのか、何の目的のために設置されているのだろうか。京都大学在学時よりごみをテーマに研究してきた浅利さんには話す。「もともと持続可能性有識者委員会に参加していて、WGに参加したのがきっかけです。WGとは、大阪・関西万博において持続可能な万博の運営を目指すとともに、地球環境問題への新たな挑戦の形を世界に示していくにあたり、資源循環に関する基本的な考え方や具体的取組内容等について、専門的視点から議論・検討を行うために開催されました。実は4年前から、万博として環境配慮にどのように取り組むか、具体的な内容や目標を定める『EXPO2025グリーンビジョン』という形で取りまとめていたんです。WGでは、グリーンビジョンのアップデートやごみ削減・資源循環のためのプラ対策、食品ロス対策などを、具体的な目標値とともに検討していました」。

今までにない取組で、 インパクトのある万博に

会場で注力している資源循環対策は主に二つ。一つ目は、会場内で食品・プラスチック等の日々発生する廃棄物をリデュース・リユースによって最大限削減し、9種類に分別排出された廃棄物のリサイクルの徹底を目指すこと。二つ目は、会場の建設から終了後まで施設・設備の資源循環に取り組むことだ。

例えば、来場者や参加者に対してはマイバッグ・マイ風呂敷・マイボトルの持参を呼びかけ、会場内には21か所の給水スポットを設置。さらに、会場内での包装・緩衝材・飲食提供時のカトラリーや容器等は、リユースできる素材の使用を第一にし、困難な場合も脱プラスチック素材を使用するよう徹底されている。そもそも国によってリサイクルの可否、焼却の可否の基準が異なること、また日本ほどあらゆる物を焼却している国は無いと浅利さんは話す。万博ではこうした国や地域ごとの意識・習慣の違いに対応す

るべく、会場に設置しているごみ箱付近には来場者に向けて、分別の指示を出す係員を配置しているそうだ。

「万博は未来を見せることが重要です。100%は難しいかもしれませんが、それに近い資源循環を行ったり、リユース食器など「そもそも出さない工夫」だったりをどこまで徹底できるかが肝心だなと。（会期は）半年あるので、定着すれば新しい行動様式になる可能性もあるので、社会実験としても思いきった事が出来たらいいなとは思っていました。パリオリンピックもペットボトル禁止だったので、それぐらいインパクトがあるような万博になるよう、WGで考えました。レジ袋もここまで徹底してNGにしているのは恐らく初めてだと思います」。



万博がフリママッチングサイトを開設!?

二つ目は、施設・設備の資源循環に向けた取組と問題解決だ。「万博のために建てられた施設や、使用された設備はどうなるの？」と気になる方も多いだろう。実は、トイレや休憩所・パビリオン等の施設に加え、窓などの取り出せる設備は移設、または入札にかけられる。しかし、こうした移設やリユースは過去に開催された万博でも行われてきたため、何か新しい取り組みができないかと、関係者が検討されてきたそう。こうして誕生したのが、大阪・関西万博における会場資源のリユースのために、需要と供給をマッチングさせるマッチングプラットフォーム「万博サーキュラーマーケット ミャク市！」での公募だ。

「ミャク市は、会場内で使用される施設・設備・什器の移築・リユースを世界の人々と実現するプロジェクトで、コーヒーマシンなど案外普通の物も出品されています。資源循環対策とデジタル技術の変革とを掛け合わせた面白い取り組みです。過去に事例の無い取り組みです」と浅利さん。今後の国内全体の施設設備のリユースの推進と、産業廃棄物の削減やサーキュラーエコノミー^(※1)の実現に向けた取り組みとして、機関や民間パビリオン設置者にミャク市への参加を呼びかける。

※1：循環型経済。資源を廃棄しないことを前提に製品を生産し循環させる経済システムのこと。

京都の取組

ご存じの通り、京都には綿々と受け継がれる環境と調和しながら育んできた文化・伝統があり、現代を生きる我々も未来へ繋いでいかなければならない。そのために、Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の3Rが重要なカギになるのは皆さんもご存じのはず。しかし、さらに未来を見据え、老若男女問わず意識から変えて発展していくためには「アップサイクル」として、より価値の高い製品に変身させ、元の素材を活かしながらデザインやアイデアを加えていく必要があるだろう。

会場内の「リングサイドマーケットプレイス西一階」に出展している、京都物産出品協会の『おこしやす京の小路』では、いくつかの取組を実施。寄贈された着物をアップサイクルしたジレ「着物アップサイクル衣装」の着用をはじめ、万博会場内でのレジ袋の配布・販売の原則禁止を受け「ふろしき回収プロジェクト」を実施。ふろしきの使い方の

トレーニングを受けたスタッフがお客様のサポートを行うほか、ふろしきの活用・推奨も行っている。

さらに、製品の持続可能性に関する情報を電子的に記録したデジタルパスポート「DPP（デジタルプロダクトパスポート）」を導入^(※2)。以前からこの「ふろしき推奨及びDPP導入」に関わってきた浅利さんからは「京都市内等ではふろしきの寄贈も受け付けていて、もっとたくさんのふろしきが必要なんです。ぜひ家庭に眠るふろしきを回収イベント等で寄贈していただきたいですね」と、改めてお願いがあった。



※2：伝統とデジタルでふろしきの価値を未来へつなぐため、各ふろしきに固有のIDを付与し、来歴や所有者からのメッセージなどをデータベースに記録したもの。

エコ&SDGsのワンダーランド

エコ&SDGsのワンダーランドとして盛り上がりを見せる今回の万博は、浅利さんにとって現状何点くらいの出来か聞いてみた。「今（取材は4月末）は、70点くらいかな……。ごみ問題を徹底して構築したパリオリンピックでさえごみが山積みになっていたので、今回の万博でもごみの問題が発生するであろうと、ある程度は想定していました。ただ、万博におけるごみ問題は、仕組みはもうきちんとできているので、あとは出展側や来場者の方がそれについてきていただけるかですね。また、もちろん言語の壁もあります。でも会場に行くと、この規模のイベントの中では頑張っていると実感してもらえるんじゃないでしょうか。もちろん完璧にできてるかと言われると、開催期間中に調整していく部分はありそうです」。

今回お話を伺って見て、パビリオンなど話題性がある部分以外でチェックしたい部分が増えた。環境問題に向き合ってきたWGが積んだ研鑽と工夫があり、大阪・関西万博に対して新たな視点を持つことができたからだ。産学官民が尽力したエコ&SDGsのワンダーランド。ぜひこの視点から、あなたも大阪・関西万博を見にいてみてはいかがだろうか。

・万博の持続可能性に関する取組



・万博タベスケ



・ミャク市！/建材・設備のリユース



総合地球環境学研究所

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4



京都超SDGsコンソーシアム

〒601-0251 京都市右京区京北周山町下寺田11
元京北第一小学校 京都里山SDGsラボ「ことす」内





全国の市民と実施した「お店のプラスチック調査」の意義



認定NPO法人 環境市民 堀 孝弘さん

海外に比べて日本の生鮮食品は過剰なほどプラスチック包装されて売られていると聞いたことがある人も多いと思います。実際にどのぐらいのプラスチック包装がされているのか、店舗での実態を調査したのが、NPO法人環境市民「お店のプラスチック調査」プロジェクトリーダーで、同志社大学経済学部嘱託講師の堀孝弘さん。なぜ、「お店のプラスチック調査」を始めたのか、またこの調査の意義について伺ってきました。

フランスでのプラスチック包装禁止がきっかけ

——現在、どんな活動をしてられますか？

NPO法人環境市民という団体がグリーンコンシューマー活動^{*}をしています。生活の入り口である「買い物」を通じて流通事業者や生産者に働きかけ、ものづくりに影響を与えていくもので、いわば川下から川上に働きかけていく環境活動をしてきました。「ごみを出さない社会づくり」を主題として働きかけをしてきたつもりです。

——「お店のプラスチック調査」を始めたきっかけは？

京都市ごみ減量推進会議（以下、ごみ減）で働いていた2022年「フランスでプラスチック包装禁止」というニュースを知ったことです。根拠となる法律は、それ以前にありましたが業界団体などの反対があって実際の施行は先延ばしになるだろうと思っていたので驚いたんです。31種類の品目から少しずつ対象を拡

大して、現在、約100種類の品目が対象となっています。ほとんど日本にもある野菜果物です。ここまでやるかと驚きました。

しかも、この法律は環境保護法ではなく循環経済法によるもの。日本ならば法律でここまで書かないのではと思うほど、かなり細かいところまで規定しています。このニュースと同時に、フランス政府から「現在フランスでは37%の野菜・果物が包装されて販売されている」という発表があり「ということは63%は無包装なの？」と驚きました。では、日本ではどうなのか。調べてみたところ、そういう論文やレポートがなかったんです。それで、ごみ減の事業として調べてみることにしました。将来、例えばSDGsの達成目標年である2030年に、プラ包装が何%かというデータを出した時に、それが何年と比べて減ったか増えたか。その起点となる情報として役立つという思いもありました。

調査しました。

全国的傾向としては、西日本のほうが野菜・果物のプラスチック包装が多く、プラスチック包装の西高

東低という傾向が見えました（中部地方から東を東日本）。野菜・果物別では、ほうれん草、バナナが極端にはだか売りが少ないとわかりました。テープを巻いただけのほうれん草やバナナも、はだか売りに含めましたが、それも含めてほとんどありませんでした。興味深いのは、市民活動、環境活動に関わる人でも気づいてなかったこと。売り手に変わってもらうには、消費者も変わる必要があります。どちらの理解も必要で、時間はかかります。でも、社会の持続性を考えると、そうそう時間が

「お店のプラスチック調査」の意義

——今回の調査の意義についてどう考えますか

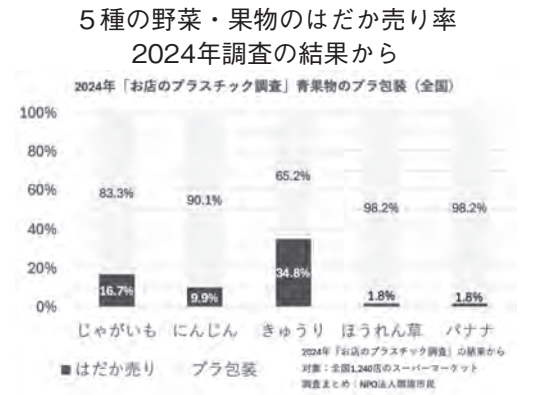
2024年の調査は全国40都道府県から1,300店以上の調査データが届きました。全国の40以上の団体や多く個人の協力を得ました。プラスチック包装の使用状況に疑問を持つ人の多さが調査の規模に反映したと思います。消費者から売り手や生産者を変えていくとしても、消費者も力を持つ必要があります。プラスチック問題への関心の高さと消費者の結集力を示せたと思います。

ほめて増やそう「はだか売り率20%以上の店」

——今後の展望について教えてください

実際にプラスチック包装を減らす活動を創出していきます。なかでも地域の市民消費者環境活動を元気にする活動を創出します。環境団体などに所属していない人でも実践でき、それでいて個人の心がけて終わるものでもなく、その成果をみんなで分かち合える活動を創出します。そこで、はだか売り率20%以上のお店を見つけて褒めて増やそう！というプロジェクトを進めていきます。2030年SDGs達成を踏まえて、2027年までにはだか売り率2割以上が当たり前になるようにしたいと考えています。詳細は今後検討しますが、そういう店を見つけて、20%以上あると確認できれば本部に取材させてもらい、プラ削減の取り組みや方針について尋ねます。これから取組を進める企業には情報提供を通じて支援します。そのための住民向けの学習会も各所で開催します。

あるわけでもない。どうすれば減らせるのか多くの人たちとの議論の場を創出していきます。



調査結果から、日本のプラスチック包装の多さを具体的な数字であらわすことができました。2020年7月の全国レジ袋一斉有料化以降も、たくさんのプラスチック包装があふれている現状を、調査参加者（もともと環境問題に関心が高い人が多い）にあらためて気づいてもらうことができました。

こういった調査が、京都市ごみ減量推進会議を起点として始まったことも、意義としてあげたいと思います。

そのうえで2027年に、再度、2024年と同じ調査をして、プラ包装の増減を比較します。減っていたら、みんなの成果として分かち合います。減っていなければ、かなり大声で警告が必要になるでしょう。そのような活動を通じて、プラ包装が放っておいても減っていく流れが作り出せたら、プロジェクト終了。

消費者にできる環境活動は、ごみの始末だけではありません。どのような商品を選ぶかで、ごみの量もエネルギーの消費も変わってきます。消費者は、選択者なのです。売り手も商品も選ぶことができます。買い物を通して、生き方や求める社会を意思表示できます。市民消費者の日々の買い物はどのような未来を望むかといった投票でもあるのです。

※「買う」＝商品を選択することによって、環境に配慮した商品やサービスづくりを応援する活動。

西日本の方が野菜・果物のはだか売りが少ない

——調査結果について教えてください

まず、2022年の11月にボランティアさんの協力を得て、野菜・果物のはだか売りの調査を、京都市内62店舗で行いました。加えて、洗剤の詰め替え商品の100mlごとの単価表示が見やすいか、詰め替えリターナブル容器を扱っているかなどかなり細かい調査をしました。そして、2023年、2024年はNPO環境市民を拠点に、全国規模でプラ包装や店頭での資源物回収など

青果物売り場のはだか売り率 調査の結果

調査 店舗数	売り場のはだか売り 環境のば（目安）		売り場ではだか売られている商品の割合（品目数比・実測）						（備考） 5商品の はだか売り率を 平均すると
	野菜・果物の はだか売り率 （目安）	はだか売り率 （目安）	じゃがいも はだか 売り率	にんじん はだか 売り率	きゅうり はだか 売り率	ほうれん草 はだか 売り率	バナナ はだか 売り率		
全国	1240 店	12.5%	11.9%	16.7%	9.9%	34.8%	1.8%	1.8%	13.0%
北海道	18 店	17.8%	33.3%	20.7%	9.4%	35.0%	3.1%	3.6%	14.3%
東北	63 店	12.2%	7.9%	17.3%	18.4%	36.3%	5.1%	2.9%	16.0%
関東	226 店	13.3%	14.5%	17.6%	9.3%	36.3%	2.3%	1.7%	13.5%
北陸・長野	33 店	9.7%	0.0%	12.6%	11.1%	23.2%	0.0%	0.9%	9.6%
中部・山梨	109 店	13.4%	15.6%	20.7%	15.8%	39.2%	2.0%	3.0%	16.2%
近畿	451 店	13.1%	13.5%	18.1%	12.5%	36.0%	2.6%	2.3%	14.3%
中国	655 店	12.0%	10.7%	16.6%	8.2%	36.2%	1.4%	1.6%	12.8%
四国	37 店	13.5%	16.2%	19.8%	16.4%	36.4%	0.0%	1.3%	14.8%
九州	45 店	10.9%	4.4%	9.8%	9.0%	31.5%	0.0%	1.3%	10.3%
九州・沖縄	52 店	12.5%	15.4%	8.5%	6.6%	13.3%	3.0%	1.0%	6.5%
西日本計	789 店	12.1%	10.9%	15.9%	8.5%	34.2%	1.4%	1.5%	12.3%

※ 調査店舗数（60店）を含む
調査まとめ：NPO法人環境市民
調査期間2024年9月から11月

認定NPO法人 環境市民

〒604-0934

京都市中京区麩屋町通二条下る 第二ふや町ビル405



・堀孝弘 環境データ資料館
<https://horitakahiro.sakura.ne.jp/>



・「お店のプラスチック調査」2022報告
（京都市ごみ減 ウェブサイト）
<https://2r-ecotown.kyoto-gomigen.jp/2r-activity/>



大阪・関西万博 EXPO KYOTO MEETING 和のこころと地球の未来 KIMONO UPCYCLE RUNWAY 参加レポート —伝統と未来が交わる瞬間—



KIMONO UPCYCLE RUNWAYの様子（撮影：竹下さより）

2025年4月23日、大阪・関西万博会場内EXPOホール「シャインハット」にて、「EXPO KYOTO MEETING ～和のこころと地球の未来～」が開催されました。

京都の魅力を発信する本イベントは5部構成になっており、5つのトークテーマによるゲストのカンファレンスを柱に、宮川町芸舞妓による舞踊、京都両洋高等学校吹奏楽部による演奏、「京都学生祭典 京災そでふれ」など、それぞれのコーナーを彩るパフォーマンスが行われました。その第3部「これからの共創と共生」の一環としておこなわれたのが、着物アップサイクル作品のファッションショー、「KIMONO UPCYCLE RUNWAY」です。

京都が誇る伝統文化の着物を活用し、新たな衣装として生まれ変わらせるこの企画には、京都府内の8大学から25名の学生が参加し、個性豊かな着物アップサイクル作品を制作、披露しました。筆者も、作品制作者として参加しました。

集まった、唯一無二の作品たち

参加学生が手がけたアップサイクル作品はどれも創意工夫にあふれていました。すぐにでも着て街を歩きたくなるようなものから、立体的でアート作品のようなものまで、表現の幅はさまざま。中には、着物の生地を敢えてペンキで汚すなど、驚く表現もありました。そして、どれも他にはない唯一無二の存在感です。

着物のアップサイクルという同じテーマであっても、一つひとつがまったく違う仕上がりになることを目の当たりにし、作者の数だけ新しい発想がある、アップサイクルの魅力と大きな可能性を実感しました。

筆者は、貸衣装としての役目を果たした白無垢と大学で

制作された真紅のドレス、そして家庭で不要になった帯を組み合わせて、ひとつのドレス衣装を制作しました。ヘッドドレスは、ゼミで制作している“京野菜の規格外品を加工した和紙”を用いて立体的な装飾を取り入れ、京都のオンリーワンを演出しました。

今回の制作を進めるなかで、着物本来の丁寧な仕立てと細やかな工夫があることに気付きました。伝統衣装に込められた技術や想いに触れることができたのは、とても貴重な体験でした。



筆者が制作したドレス衣装（撮影：竹下さより）

新しいカタチでつなぐ伝統

ショーの終了後、海外からの来場者が、筆者の作品を撮影しても良いかと声をかけてくれました。万博会場のシンボルである大屋根リングの下で撮影の様子を見守りながら、アップサイクルという唯一無二の“新しいカタチ”をつくることによって、京都の伝統文化を新たな切り口で発信できると確信しました。

世界に通じるKIMONOは日本が誇る伝統衣装です。伝統的な使い方を守り続けることに加え、若い世代の創作によって現代の感性に合わせ、魅力的に発信していくことは、着物を未来につなぐ方法にもなり得ると考えています。

これからも、京都で学び、京都の伝統を知り、敬意を持って、世界に発信できる“新しいカタチ”を模索していきたいと思っています。

〈参考資料〉

・読売新聞オンライン「大学生が着物「お直し」ファッションショー 4月23日、VOGUE JAPAN編集長や国内外デザイナー講評」（最終閲覧日2025年5月13日）
<https://www.yomiuri.co.jp/expo2025/now/20250422-0Y01T50040/>

・京都市情報館「オール京都の万博イベントEXPO KYOTO MEETING～和のこころと地球の未来～の開催（第2報）」（最終閲覧日2025年5月13日）
<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000339313.html>

坂本 遼香（京都光華女子大学キャリア形成学部）
（2025年4月23日取材）



KBS 京都 アナウンサー
うみひろ なごみ
海平 和

●● 第45回「大阪・関西万博で感じた『いただきます』への感謝と重み」 ●●

大阪・関西万博にはもうみなさん行かれたか？テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。それぞれが求める多様な生き方や考えを実現できる持続可能な社会とはどのようなものでしょうか？私にとって、そういった意味をより考えさせられた印象に残ったパビリオンがあります。放送作家、脚本家の小山薫堂さんがプロデュースされたパビリオン「EARTH MART」です。食を通じて命を考えるをコンセプトに、スーパーマーケットをイメージした空間には野菜の一生を考える展示や、命の重さを感じられる“はかり”の展示が。その他、料理人の料理方

海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京都経済テラス キュンと!」、ラジオ「さらピン! キョウト」などに出演。

法を記録し再現する「録食」技術を魅せてくれる最新キッチンシステムなど「食」について様々な視点から見つめ直す時間となりました。

万博という、未来のショーケース、新しいものを展示する祭典というイメージがありますが、小山さんは命をテーマに、どうすればより未来の命が輝くのか、よりよい未来になるのか考える中で、感謝の気持ちが芽生えれば、人に対して優しくなれる、その優しさこそ未来にもっていくべきものだと感じられたそうです。その感謝の気持ちは、普段当たり前のように口にしている食べ物の背景にある命の努力を知ることによって芽生えるはずだとも。「いただきます」に魂がこもると、これからの生き方も変わってくる、それは非常に重みのある言葉でした。

大阪・関西万博に出向くと新しい知識や人との出会いがあります。私たちが生きている今この時代に関西で開催されているという奇跡にも感謝し、よりよい未来に向かって考え、動いていきたいと感じた1日でした。



人と物と。 織りなす「もっぺん」物語



第 32 回

洋服の病院

『デニムが裂けた』、『サイズが合わない』など、愛着のある服をどうしたらいいのか分からず困っている方もいるのではないだろうか？このような悩みを抱えている人におすすめのお店が「洋服の病院」だ。代表の早川幸男さんは、服のお直しから子どもの大事な縫いぐるみの怪我まで、分厚い本になるほどの経験を駆使して直すことのできる職人だ。彼の朗らかな人柄はお直しの相談が気軽にできると感じた。早川さんの信念は「依頼を断らない」というものだ。心意気を感じる。



店には日々個性豊かな依頼が持ち込まれる。他店では袋から服を出す前に断られてしまうようなものもある。あるとき、「亡くなった父の一周忌に父の礼服を自ら着るためにサイズを小さくして欲しい」という依頼があった。服の構造上難しい仕事であり、採寸中に「それムリちゃう？」と思ったが早川さんはそれを引き受けた。驚くことにお客さんはその場で涙を流したという。無下にせず、気持ちを受け止めてもらったことがとても嬉しかったのだ。これを機に現在の方針に変わっていったという。

どんなに難しいお直しでも「断らない」し、門前払いをすることもない。「お客さんの思いをぐめんなさいの一言で済ませるのは悪になる。しっかりと受け止めることが大事」と早川さんは語ってくれた。服と人の縁を繋ぎなおしてくれる「洋服の病院」を是非訪れてみてほしい。



▶株式会社 洋服の病院

京阪三条店 営業時間：10:00～18:00 定休日：日曜・祝日 〒605-0001 京都府京都市東山区二町目82 TEL：075-771-7700
ほか、市内全8店舗 <https://youfuku-no-byouin.co.jp/shop>
総合案内（本社）TEL：075-661-0119

江本 和弥（2025年4月21日取材）

地域活動レポート

～龍池学区地域ごみ減量推進会議～

小さな一歩も、
継続することで着実な成果に学習会「みんなのごみ」で考える
ごみのゆくえ

龍池学区地域ごみ減量推進会議（以下、龍池ごみ減）では、月に一度の自治連合会の会議の機会を活かして、地域住民の環境意識向上を目的とした様々な活動を実施しています。今回は、有限会社ひのでやエコライフ研究所の大関はるかさんを講師に招いた「みんなのごみ」学習会の当日に訪問し、岡本さんにお話を伺いました。



会場は自治会館でもある「京都国際マンガミュージアム」の一角で、23名の出席がありました。「せっかくみんなで集まるなら学びの機会にしたい。」という岡本さんの想いから2018年に学習会が始まりました。

「エコ推進」を掲げ
10年以上続けている活動

龍池ごみ減の活動をリードする岡本さんは「やるからには徹底してやらないと」と強い意志を持ち、住民の意識改革に尽力しています。地域の運動会のごみは全て持ち帰り、夏祭りなどは完全分別などの徹底ぶりです。観光地として多くの観光客が訪れる地域であるにもかかわらず、ごみの乱れはほとんどなく近年さらに減ってきているそうです。

「ごみ減量」だけでなく、CO₂もごみと捉えて「エコ推進」を進め、年間を通じて『こごみ日和』や『ごみゆにけーしょん』（※¹）を地域で回覧するなど、日常の中で積極的に環境情報を発信しています。

またエコバスツアー（※²）は、ごみ処理施設の見学などを通じて、住民が環境問題を身近に感じられるイベントで、「実際の処理現場を見て、改めてごみの行方を考えさせられた」と話す参加者もいたそうです。その他に、年毎に各組長に配布する「うちの省エネチェック」（※³）の提出



数も増加傾向にあり、昨年度は約3分の1の提出がありました。これは京都市全体と比べても高い水準で、住民の環境意識が高まっていることがうかがえます。

エコ推進を当たり前

ただ、現在の課題はまだ参加者数が少ないこと。コロナ後に再開したエコバスツアーの参加者は10人程度にとどまり、岡本さんは「京都市のごみが半減したことは、本当に素晴らしい。でもさらに減らすためには、もっと多くの人に参加してもらえるよう、工夫していきたい」と語っていました。今後も学習会や見学ツアーを継続的に開催し、地域住民の意識改革を促進することで、「エコ推進」が当たり前の社会になっていくでしょう。

※1）京都市発行の事業ごみ減量ニュースレター

※2）エコバスツアー：京都市が処理・再資源化を行っている民間の処理施設を見学する無料のツアー

※3）うちの省エネチェック：京都市が省エネ行動促進プログラムの一環で実施する家庭の省エネを診断しアドバイスする仕組み。

岸 さゆり（2025年2月20日取材）

『わたしのごみ減らし術』▶手作りドレッシングでエコサラダ

暑い季節はサラダが美味しい。そこでドレッシングの出番。スーパーの売場にはメーカー品がズラリ並んでいます。フレンチ、サウザンアイランド、和風、玉ねぎ、カレー味などなど。容器の隅にはプラマークがついていて確かにリサイクルはできますが・・・。ドレッシングを手作りしたなら、プラごみなし、容器を洗う手間なしのエコサラダに。例えば、フレンチドレッシング。酢、油、塩、胡椒を箸で混ぜるだけで出来上がり。醤油と胡麻を加えれば和風。マヨネーズとケチャップを加えればサウザンアイランド風。味付けもお好みのままにアレンジを楽しみ、エコライフを実感しながら、サラダを味わいましょう。

森田知都子